

「イメージマップ」の作成と保育実践による意識の向上

保健体育・日野克博

1. 授業の概要とねらい

「健康の指導法」は、幼稚園教諭の教育職員免許状の取得並びに保育士養成コースにおける保育士の資格取得に必要な科目である。この授業では、幼児の基本的な生活習慣の形成について、具体的な実践事例にもとづきながら健康づくりの支援の方法を学ぶことを目的としている。あわせて、子育て支援の実際を知りながら、実践的指導力の向上をねらいにしている。

本年度は、教員の退職に伴い、授業担当者が変更になった。従来の授業内容を踏襲しながら、より実践的な授業内容に再構成した。また、本授業は1年生の前期に開講されるため、学生にとっては、大学入学後に受講する専門的な学びの出発点であり、幼児教育への導入的な位置づけにもなる。

そこで、本授業では、以下のような到達目標並びに授業スケジュールを立て、授業を進めることにした。

<到達目標>

- ・幼児期の子どもの特徴と心身の健康を促す際の留意すべき点を説明できる
- ・健康づくりの支援の方法を実践できる
- ・保育実践の経験を通して、子どもと進んでコミュニケーションをとることができる

<授業のスケジュール>

第1回	ガイダンス，アイスブレイク
第2回	幼児教育のねらい（幼稚園教育要領）
第3回	子どもの運動発達（運動遊びの大切さ）
第4回	遊び体験ワークショップ
第5回	保育実践の紹介（VTR）
第6回	遊び文化の創造1
第7回	幼稚園教育要領を読み解く
第8回	遊び文化の創造2
第9回	保育実践①（附属幼稚園）
第10回	保育実践①（大学でのふりかえり）
第11回	保育実践②（附属幼稚園）
第12回	保育実践②（大学でのふりかえり）
第13回	保育実践③（附属幼稚園）
第14回	保育実践③（大学でのふりかえり）
第15回	まとめ

2. 授業の展開と工夫

本授業では、学生の主体的な学びと幼児教育に関する意識変容を促すために、以下のような工夫を行った。

1) 温かな授業の雰囲気への創出

前述したように、本授業は1年生前期の授業であり、まだ所属する専修等も決まっていない状況である。学習集団としてのまとまりや温かな学習の雰囲気を創り出すために、アイスブレイクやゲームの要素を含めた活動を、授業の中に積極的に導入した。さらに、それらの活動自体が、子どもの遊びを創造する学習の機会として位置づけ、授業の後半は学生自身が、温か保育の雰囲気を創出する主体者として遊びづくり、雰囲気づくりを意識させるようにした。

2) 幼稚園教育要領の分析

保育の指針として、幼稚園教育要領が位置付けており、その理解を図ることを重視した。運動遊び等の活動の背後には、教育的な営みや配慮が不可欠であり、幼稚園教育要領を読み解くことにより、発達段階に応じた専門的な知識や実践力を高めることの必要性を認識させるようにした。

3) 子どもとのかかわりを通じた学び

附属幼稚園での保育実践の機会を複数回設け、実際の子どものかかわりから、理論と実践の往還を図るようにした。実際の保育現場に参加することにより、子どもの実態や保育活動を直接感じることで、よりリアリティのある学びの場を設定し、学生の主体的な学びを促すようにした。

4) イメージマップの作成

各自の意識変容を実感し、今後の大学生活での自己教育課題を明確化させるために、授業前後でのイメージマップの作成やグループディスカッション、省察シートによるふりかえりの時間を設定した。学習活動や学習成果を可視化させ、学習のふりかえりの資料として活用することにした。

3. 学生の授業評価

本授業では、①DPに基づくアンケート調査、②イメージマップ、③省察シートを通じて、学習成果と課題について検討した。

1) DPに基づくアンケート調査

表1は、教育学部 DP に対応した学生の評価を示している。4点満点でどの項目も3点以上の得点になっており、学生の満足度は高いと言える。とくに、4Aの「自己教育課題の明確化」が3.75、1Aの「教育に関する知識の修得」が3.63と高くなっており、本授業を通して、今後の幼児教育並びに大学での学びに対する自己教育課題や動機づけが図られたものと推察できる。また、保育実践の経験から、地域連携実習への参加意識を高めた学生も多くみられた。

表1. DP に対応した学生の評価

教育学部の DP	学生評価
DP1. 知識・理解	
1A 教育に関する知識の修得	3.63
1B 得意分野の専門的知識の修得	3.33
DP2. 思考・判断	
2A 教育をめぐる現代的諸課題の理解	3.42
2B 適切な対応策のあり方に…	3.29
DP3. 表現・技能	
3A 教育活動に必要な高い技能の修得	3.04
3B 教育活動に必要な豊かな表現力…	3.25
DP4. 関心・意欲	
4A 自己教育課題の明確化	3.75
4B 主体的な学習への意欲の喚起	3.46
DP5. 態度	
5A 専門的職業人としての使命感や…	3.58
5B 多世代にわたる対人関係力の育成	3.29

*4点満点の平均

2) イメージマップの変容

本授業では、1時間目と15時間目に幼児教育に関するイメージマップを作成した。図1、図2はA学生の授業前後のイメージマップである。幼児教育に関するイメージが、漠然から具体、一般から専門へと深まりや広がりを持って変容していることが読み取れる。まとめ(15回目)では、授業前後の自らのイメージマップを比較しながら、幼児教育に関するイメージ形成を自己省察した。多くの学生が、保育者としての立場から幼児教育を考えるようになったことが確認できた。

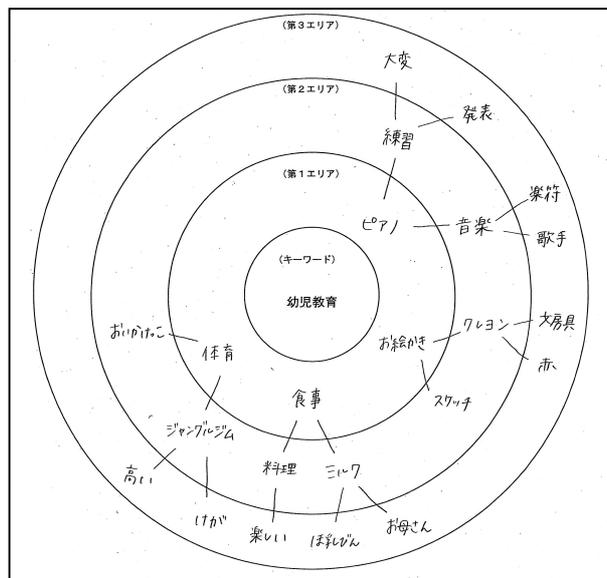


図1. 1時間目のイメージマップ (A学生)

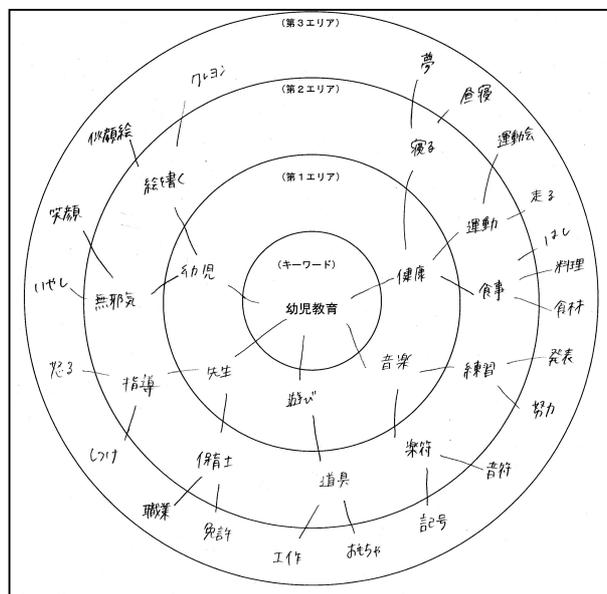


図2. 15時間目のイメージマップ (A学生)

3) 省察シート

授業(単元)の中盤、各保育実践のふりかえり、まとめの授業で、省察シートを活用して自己の学びを問い直す機会を設定した。末尾にその一部を示している。本授業を通して、幼児教育に関する意識高揚と実践的課題をもてるようになったことが、本授業の成果であり、今後もよりよい授業へと改善を図っていきたい。

(学生のコメント)

- ・ 幼児教育の問題や課題、指導する者の心得など、知識がとても得られました
- ・ イメージマップを見比べて、3ヶ月の間でこんなにも幼児教育に対するイメージが変わったのに驚きました
- ・ 実際の子どもをイメージして幼児教育を考えるようになりました